

秋彼岸追悼の文

敬つて真言教主大日如来、しょうじゆ 两部界会、こと 諸尊聖衆、そう 殊に総じては安養寺本尊薬師如来、もう 当観音堂本尊観世音菩薩に白して言さく。

本日は「七き人を偲び祖先を敬う日」と日本国憲法も規定し、

「国民の休日」と定めている秋彼岸の中日。安養寺秋彼岸会」を謹

んで厳修する。しきしゆつ ここに熊谷俊亮住職ならびに職衆、しきしゆつ ご詠歌講より真

言宗の即身成仏の経路、とんしやう 頓証菩提の真文を誦誦し、しんもん 一切の悪趣を

超え無量の重障を消し、じゆつしやう 甚深の廻向をじんじん 先祖供養とする。

おもん 惟みれば、べんそうじやう 当山安養寺は千三百年前、かいそう 聖武天皇の発願により良

弁僧正の開創による古刹なり。せいじやく 静寂に包まれ千年の歴史を宿す。

今夏の猛暑にも負けず境内に咲くサルズベリは、鮮やかな赤色を初
夏から晩夏まで絶さない。さえざる小鳥は小鳥に、草木は草木にな
り切り、生まれ変わり、死にかわり今日まで来ている。いのちの

ふれんぞく 不連続くらの連続で、じつしやう 「生死の中に仏あれば生死なし」の実証でもある。

人間は小鳥などに比べて感情や理性のために右往左往してひたむきな
ところがない。ああでもない、こうでもないいぢおと分別をするからである。

教育をさかんにすれば、賢い人間が多くなる。勢い世の中も平和に
なるはずだが、いぢお 事實はどうなのか。人間は共存共栄する。ここ境内
の千年の歴史に、そこでさえざる小鳥にもおよばぬところがある。小
鳥は必要以上食料をあさらないからである。仏教の伝統とは、無量

寿の生命的展開で、よよせせ世世生生これを伝えてきた、今日の物質的豊かさには、必ずしも人間に幸福をもたらすものではない。

時節はコロナ禍で人間は苦難に遭遇そうぐうしている。ここに弘法大師のみ教えの「山川草木悉皆成仏」を戴く。山や川、草や木にも全て仏の心仏性がありますと。ここでも仏教の目標の智慧と慈悲の心が至きとし、いけるもの」の命、創造が説かれている。

そして先祖を「さきのおや」と呼んでご先祖さまを大切にする信仰が伝えてこられた。

この世を此岸しがんといい、対して彼岸は仏の眞実の世界をいう。泥にまみれる此岸から眞実の彼岸に渡る船は、六つの徳目を積んでいる。

六波羅蜜の願いの船、願船がんせんである。

六つの徳目は、一つはたゆまなく、努力してゆく「精進しょうじん」。二つは、守るべき約束、規範を持って「持戒じかい」。三つは仏や人に施す「布施ふせ」。

四つは、荒立った心を静かにおさめる「禪定ぜんじょう」。五つは、常に辛抱し

その中に楽しみを見い出す「忍辱にんにく」。六つはわがままな独断でなく仏の眞実を説かれた教えに従う「智慧ちえ」。以上、精進、持戒、布施、禪定、忍辱、智慧の船に乗船し此岸から彼岸へと心を運ぼう。人は人なり穏やかに安らぐ。大慈大悲の仏のもとに安んじて、やす苦難をのり超え福德へと転じよう。

乃至法界 平等利益

令和二年九月二十二日

京都府向日市寺戸町西垣内十五・六十四

亀光庵

沙門 土口哲光

敬白